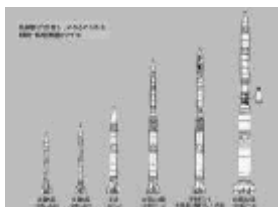


国際社会の自制要求を無視して、北朝鮮は、4月5日1130頃、北東部舞水端里（ムスダンリ）のミサイル発射基地からテポドン2（改良型）と目されるミサイルを発射し、一段目は日本海に、二段目以降は太平洋海上に落下した由。以下小生の所懐の一端を述べたい。

1 発射誤発表問題について

一刻を争う迅速性にうろたえたのか或いは緊張感からか、基本であるべきダブルチェックをしなかった故だとすれば恥ずかしい限りである。然しながら、本番に備えての良き検証でもあった。迅速性と正確性の狭間で正しい判断や処置が出来ねば危機管理を全うできない。当たり前だが、本番の情報伝達は上出来だったのではないだろうか。



2 「飛翔体」なる語彙に違和感！

衆・参両院の決議において一部野党の要求に屈し、ミサイルを北が人工衛星の発射といているのだからとの理由で飛翔体などとオブラート包んだような言い方には釈然としない。また、30日の対北自制要求決議では国連決議違反との文言を共産・社民、国民新党の要求で削除したが情けない限りである。こんなことでは足元を見られて掬われかねない。

3 北朝鮮の能力改善に脅威

北朝鮮が長距離ミサイルの発射能力を逐次に改善していることは歴然たる事実である。小型核兵器の搭載能力は未だしであるかも知れぬが、日本の安全保障上極めて憂慮すべき事態である。

4 国民保護の必要性を認識

幸いにして日本国内に破片も何も落下しなかったから良かったが、何らかの事態が惹起した場合には国民保護法が適用されることとなった。今回の事態は、正に国民保護法が想定した事態である。国民自身もミサイル防衛の必要性と共に国民保護の重要性を認識したのではなからうか。

5 不愉快極まりない発射

仮に百歩譲って人工衛星の打ち上げであったとしても、他国の領空上の大気圏を通過させるなど非常識である。他に適当な打ち上げ法がないのであれば、頼んでくるのが筋ではないか。威嚇としか考えられない。

6 今回の発射は成功か否か

少なくとも、彼等が名目にした人工衛星の打ち上げであったとすれば、速度（7.9k/s以上）も充分ではなく、二段目の切り離しに成功せず、搭載物も軌道上に放出されておらず明らかに失敗である。弾道ミサイルだとしても弾頭部分の切り離しが出来ておらず失敗である可能性が高い。成功したのであればそれなりに、政治的にはメリットはあったかも知れないが、失敗ならば国際社会の反発を買うのみで失敗であろう。

7 中国は何を恐れるか？

朝鮮半島におけるバッファーとしての北朝鮮の地位、体制崩壊等に伴う大量難民の流入に伴う大混乱の回避、米国等西側社会やロシアに対するNKカードの保持等が中国の狙いであろうが、我慢強いものである。

8 米国は何故迎撃しなかったのか？

日本のはるか上空を通過したので、結果的に迎撃に機会はなかったが、米国は東太平洋上にイージス艦を派遣しており、迎撃しようと思えば出来たのであろう。余りにも刺激的過ぎるとの判断か。確かに米国が直接脅威に晒された訳ではないが・・・

9 ミサイル防衛の困難性

今般は、打ち上げの幅はあるものの概ねの時期や予定飛翔コースが明らかであったので、事前に対処部隊を配置できたが、実際の場合にはそうは問屋が卸さない。では日本全国あまねくミサイル防衛システムを展開させるか、そんなことは出来ない。とすれば、解決策は一つしかない。やられる前にやること以外に対処法はない。日本にはそれだけの実力が無いとすれば米国に期待せざるを得ない。集団的自衛権の行使を認めるべきだろう。

既に議論の段階ではない筈だ。決心の段階である。首相の決断に期待する。

10 E m-net（エムネット）と J-Alert について

今回は、国から地方自治体等への情報伝達的手段として緊急ネットワークシステム（E m-net（エムネット））を使用した。然しながら、今回のような緊急事態に対応するために J-Alert を整備した筈ではなかったのか。普及率が低かったから使用しなかったのだろうが、可笑しい話である。今回の事件を奇禍として普及促進を願いたいものである。

11 安保理決議を巡る駆け引き

今般の発射が明白な安保理決議違反であり、国際社会に対する挑戦であるとして新たな決議採択を目指す日米そしてそれに同調する欧州勢と、北朝鮮の六カ国協議からの離脱を思い止まらせる為に決議に反対する中露との駆け引きが急である。六カ国協議存続

のためにとの論理で今まで何回煮え湯を飲まされてきたことか。そのことが如何に北朝鮮を利してきたことか、解らぬ中露ではあるまいに。同じ過ちは繰り返してはならない。

12 日米の連携した警戒態勢の構築

日・米・韓の警戒・監視の体制は比較的整合性も取れて良かったのではないだろうか。米国の早期警戒衛星、日米の警戒監視レーダー、日米イージス艦の適切な配置によるレーダー覆域、そして情報連絡体制も適切だったのだろうと推察される。

13 体制移行の可能性は

北朝鮮の体制維持を掛けた瀬戸際戦術は現在のところ功を奏しているやにみえる。自壊の可能性も見えず、内部からの体制変革もないとすれば、過激な意見ではあるが、外部からの圧力や締め付けによる崩壊を促進すべきではなかろうか。国際社会はソフトランディングばかりを狙うのではなく、強行策をも考慮すべき時期に来ているのではと思う。

14 国内の警戒レベルのアップを

今回の事態における日本の対応に業を煮やした”跳ねっ返り”(国家が主体的には思いたくない)が何をしでかすか解ったものではない。明白にテロとは思えない不審事案が頻発する可能性もある。国民が「自らの命は自ら守る」との気概と国家としての磐石の警戒態勢の構築が必要である。

15 過剰反応か？

親日的な国ですら、今回の日本の反応は過剰反応だと言うが、日本とそれらの国では安全保障上の脅威の度が全く違うのだから、日本が厳しく反応するのは当たり前だ。冷静になれと言う方が可笑しい。勿論対処は冷静且つ効果的・合理的に行うべきだが・・

16 日米同盟の一層の強化を

北朝鮮のミサイルの脅威が現実のものとなりつつある。槍を持たない日本としては日米同盟をより一層強化せざるを得ない。アメリカにとって日本が真の意味において重要であることを認識させなくてはならない。日本は何を為すべきか、沖縄の海兵隊移転問題の促進、国際平和協力活動分野における実行可能な協力の実施等、米国の信頼を維持し得るべく行動するを要す。民主党政権は日本に対してはっきり物を言うのだろう。それに対応できる日本でなければならない。

17 危機対応に関する検証の場に

先程、某県の危機管理幹部から電話を貰ったが、正にミサイルのコース下にある某

県の危機管理監のみが多忙を極めたのではなく、彼も対処で多忙且つ緊張の連続であったとのことであった。今回、幸いにして何もなかったが、国や都道府県等レベルにおいても最高の危機対応訓練が出来た。教訓を汲み取り、明日に繋げて貰いたいものである。

この限りにおいては北朝鮮に感謝せざるを得ない。

18 発射を受けての国会決議について

流石に本日の決議では、ミサイル発射、国連決議違反、制裁云々と厳しい文言が並んだようだが、当然であろう。共産・社民は反対・棄権のようだが、国民感情から逸脱していること甚だしい。

以上思いつくままに所懐を述べたが、事実関係が更に明らかになれば、所懐も変わるやも知れぬ。(了)